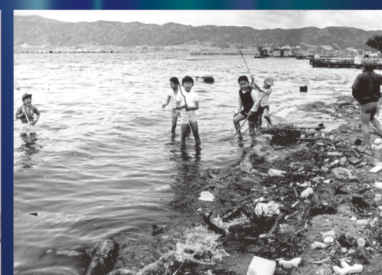


報道写真家 樋口健二 写真展

# 「諏訪湖と私」

すわのうみ



2024年  
11月16日(土)  
～  
12月22日(日)

**会場** 下諏訪町立 諏訪湖博物館・赤彦記念館

〒393-0033 長野県諏訪郡下諏訪町10616-111 TEL0266-27-1627

■開館時間／午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

■入館料／大人350円(240円) かつこ内は20名以上の団体料金、高校生以下無料

■休館日／月曜日と祝祭日の翌日、年末年始

## 樋口健二 × 石川文洋 特別対談

報道写真家が見詰める諏訪湖 ～環境と平和～

**日時** 11月23日(土) 13:30～15:00

**講師** 樋口健二さん(富士見町松目出身) 石川文洋さん(諏訪市在住)

**会場** 下諏訪町立 諏訪湖博物館・赤彦記念館

〒393-0033 長野県諏訪郡下諏訪町10616-111 TEL0266-27-1627

主催：報道写真家樋口健二写真展実行委員会 共催：長野日報社

協力：下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館



すわのうみ  
心の中にはいつも「諏訪湖」があった

四日市公害、自然破壊、原発労働者、東京電力福島第一原発事故…。戦後の経済成長の中で、「売れない写真家」を60年間貫き、繁栄の裏側で虐げられた人々に寄り添い、記録し続けた。フリーだからこそ出会えた人がいて、フリーでなければ撮れなかった写真がある。本展は、報道写真家・樋口健二さんの足跡をたどりながら、長年撮り続けてきた諏訪湖の写真を公開し、故郷に対する思いや自然と人間のかかわりについて考えます。



樋口健二(ひぐち・けんじ)

1937年3月、長野県富士見町松目生まれ。報道写真家。高校卒業後、一家で離村し上京。デパートで見たロバート・キャバの写真に「魂が震え」て写真家になることを決意した。写真専門学校を卒業し、フリーの写真家として四日市ぜんそくなどの公害や原子力発電所の被曝労働者を長期取材。原発炉心部で働く労働者を初めて撮影し人海戦術で働く原発の実態を明らかにした。原発事故後に再び注目が集まり、国内外で写真展を開催し、講演を続ける。2001年にNGO「ワールド・ウラニウム・ヒアリング」(本部ドイツ)が創設した「核のない未来賞」を日本人初受賞。日本写真芸術専門学校顧問、日本写真家協会会員、世界核写真家ギルド会員。写真集・著書は「四日市」(六月社書房、1972年)、「原発」(オリジン出版センター 1979年)、「樋口健二報道写真集成-日本列島1966-2012年」(こぶし書房、2017年)など多数。